

Ishikawa
Medical
石川県地域医療支援センター 広報誌
WAVE
いしかわ メディカル ウェイヴ

2014
Spring

第11号



石川県地域医療支援センター

地域医療連携 診療情報共有ネットワーク

いしかわ診療情報共有ネットワーク協議会の発足

県医師会、9ヶ所の郡市医師会、32ヶ所の情報提供病院、県から構成される「いしかわ診療情報共有ネットワーク協議会」が発足しました。



石川県医師会会長 近藤邦夫 氏



県健康福祉部長 北川龍郎 氏

いしかわ診療情報共有ネットワーク協議会

H25.12.2
より

- **構成**：県医師会、9郡市医師会、32情報提供病院、県
- **会長**：県医師会・会長
- **業務**：規程等の制定・改廃、その他重要事項の審議
- **事務局**：県医師会

いしかわ診療情報共有ネットワーク運営委員会

- **構成**：県医師会、郡市医師会（注1）、情報提供病院（注2）、県
（注1）金沢市医師会、小松市医師会、能登北部医師会
（注2）金沢大学附属病院、県立中央病院、国立病院機構 金沢医療センター、
公立松任石川中央病院、恵寿総合病院
- **業務**：利用施設の承認等、運用ルール等の改正など検討
各種研修会の開催、ネットワークの発展に向けた検討 等
- **事務局**：県医師会

診療情報共有システム 推進委員会

- **構成**：県医師会、
郡市医師会
- **業務**：県医師会と
郡市医師会の
意見交換 等

研修会の開催（医療関係者に対する普及啓発）

診療情報共有システムに関する研修会

活用事例の共有

【日時】平成25年11月10日（日） 10:30～12:00 【場所】金沢赤十字病院 5階 講義室

【内容】ID-Link を用いた病診連携&在宅医療の実践

北美原クリニック理事長 岡田 晋吾 先生

ID-LINK研修会

地域連携室関係者を対象とした研修会

【日時】平成26年1月14日（火） 19:00～20:30 【場所】金沢赤十字病院 5階 講義室

【内容】ID-Link 運用における連携室の役割

公立松任石川中央病院 時國 知之 医療連携課長

まとめ

■ 参加機関数は、情報提供病院（32 病院）と情報閲覧機関（約 390 ヶ所）

- ・ 郡市医師会単位で説明会などを開催し、国内最大規模の参加機関数を実現。

■ 協議会は、県医師会、9 郡市医師会、32 情報提供病院、県から構成

- ・ 協議会の下に運営委員会やシステム推進委員会を設置。メーリングリストも作成。

■ ユニオンは 3 つ。運用ルールは、「たまひめネット」等を参考に策定

- ・ 既に、「たまひめネット」（金大病院）と「ハートネットホスピタル」（金沢市医師会）が稼働していたことから、ユニオンは3つ。
- ・ 運用ルールは、「たまひめネット」や「ハートネットホスピタル」の運用ルールを踏まえて作成。

■ 運用支援体制は、県医師会（協議会事務局）、郡市医師会（地域事務局）、情報提供病院の協力の下に構築

- ・ 県医師会は、操作練習環境の構築、システム対応窓口の設置などを実施。
- ・ 郡市医師会は、情報閲覧機関の利用申込・退会申込の窓口の設置、操作説明会の開催、情報閲覧機関の初期設定支援などを実施。

■ 研修会の開催を通じた、ネットワークの活用事例を共有するとともに、地域連携室等の関係者の顔の見える関係の構築

糖尿病対策成果発表会

【日 時】平成26年3月15日(土) 午後14時～17時

【場 所】県医師会研修室

【主 催】県、県医師会

本県では第6次医療計画及び健康フロンティア戦略2013に基づき、糖尿病の重症化予防へ向けた対策を進めています。

3月15日に開催された糖尿病対策成果発表会では、各地域・各団体における取組や課題などの情報を共有し、有効な取組を他地域でもお互いに検討・活用することを目的に、9地域の協議会と3関係団体が平成25年度の取組やその成果について発表を行いました。



開会の挨拶

石川県医師会会長 近藤 邦夫 先生

基調講演

「生活習慣病、予防への挑戦。」

【座長】石川県医師会理事 三輪 梅夫 先生

【講師】千葉大学大学院医学研究院客員教授
前厚生労働省健康局長 矢島 鉄也 先生

各地域の協議会における取組発表【9協議会】

【座長】金沢大学教授 小泉 順二 先生

1. 能登北部地域医療協議会糖尿病重症化予防連携部会 市立輪島病院 地域医療連携室 飛岡 香 先生

- ・保健と医療の連携を強化するためにネットワーク連携会議を開催
- ・症例検討会の開催など医療従事者への研修
- ・病院フェスタなど地域への普及啓発

2. 糖尿病患者を助け合う地域連携協議会・七緒の会 恵寿総合病院顧問 宮本 正治 先生

- ・糖尿病地域連携カンファランスの開催など医療従事者への研修
- ・専門医療機関からかかりつけ医への栄養士の派遣
- ・パンフレットの作成による普及啓発

3. 羽咋郡市糖尿病地域連携協議会 公立羽咋病院病院長 鵜浦 雅志 先生

- ・郡市医師会総会などを活用した医師向けの講演会の開催
- ・歯科医師会と連携した歯周病対策
- ・健康づくり推進員を対象とした講演会の開催や、住民健診時に配付するパンフレットの作成などの普及啓発



近藤 邦夫 先生
石川県医師会会長



三輪 梅夫 先生
石川県医師会理事



矢島 鉄也 先生
前厚生労働省健康局長



小泉 順二 先生



飛岡 香 先生



宮本 正治 先生



鵜浦 雅志 先生

4. 河北地区糖尿病発症・重症化予防ネットワーク協議会 河北都市医師会会長 北谷 秀樹 先生

- ・医療従事者を対象とした研修会・症例検討会の開催
- ・「紹介・逆紹介基準」携帯版・診療情報提供書 CD 版の作成
- ・病診連携を進めるための啓発用ポスターの作成
- ・糖尿病を専門としない医療関係スタッフ向けの勉強会の開催

5. 白山野々市地区糖尿病重症化予防ネットワーク協議会 白山ののいち医師会副会長 真田 陽 先生

- ・医療従事者を対象とした研修会の開催
- ・一般市民を対象とした研修会の開催
- ・病診連携を進めるための啓発用ポスターの作成
- ・ID-LINK を活用し病院の検査データをかかりつけ医へ提供

6. 小松市医師会糖尿病連携推進協議会 小松市医師会会長 東野 義信 先生

- ・かかりつけ医で行う治療方針決定のための検査項目の標準化
- ・かかりつけ医から市の栄養・運動教室へ紹介する仕組みの構築
(受診勧奨連絡票などの作成)
- ・薬局等との連携による受診勧奨モデル事業の実施

7. かけはしネットワーク能美 能美市医師会会長 松田 健志 先生

- ・かかりつけ医を対象としたアンケート調査の実施、専門医療機関を
紹介して糖尿病合併症をチェックしてもらう仕組みの構築、
事例検討会の開催など、病診連携の強化
- ・未治療者・治療中断者を対象としたアンケート調査の実施
- ・糖尿病 d e ランチなど普及啓発活動

8. 加賀市糖尿病協議会 加賀市医師会会長 松下 重人 先生

- ・症例検討会の開催や糖尿病連携手帳の活用など病診連携の強化
- ・診療の合間に数分で出来る療養指導をコメディカル向け研修会で提案
- ・歯科医師会と連携した歯周病対策の実施
- ・薬局と連携した受診勧奨モデル事業の実施

9. 金沢地域における糖尿病診療連携に関する連絡会議 金沢市医師会会長 竹田 康男 先生

- ・公民館単位での糖尿病教育講演の開催による健診受診率の向上
- ・保健師による CKD 患者、血糖コントロール不良者に対する訪問活動
- ・すこやか健診担当医を対象とした研修会の開催や糖尿病治療状況の
アンケート調査の実施など、かかりつけ医への働きかけ

各団体の取組発表

【座長】金沢赤十字病院副院長 西村 泰行 先生

1. 石川県糖尿病療養指導士研究会世話人 油野 友二 先生

- ・石川県糖尿病療養指導士の認定制度の創設
- ・石川県糖尿病療養指導研修制度カリキュラムに基づく研修会の開催

2. 糖尿病看護ケア研究会代表 稲垣 美智子 先生

- ・糖尿病腎症悪化予防に関する研修会の開催（能登、加賀）
- ・糖尿病療養指導に関する研修会の開催
- ・関連講義ができる人材の育成

3. 石川県栄養士会副会長 大谷 千晴 先生

- ・栄養士を対象とした研修会の開催
- ・栄養ケアステーションの登録者の確保
- ・栄養ケアステーションの広報

閉会の挨拶

石川県健康福祉部 高本 和彦 次長



北谷 秀樹 先生



東野 義信 先生



松下 重人 先生



西村 泰行 先生



稲垣 美智子 先生



大谷 千晴 先生



高本 和彦 次長
石川県健康福祉部



真田 陽 先生



松田 健志 先生



竹田 康男 先生



油野 友二 先生



大谷 千晴 先生

地域医療連携 脳卒中診療ネットワーク

脳卒中診療ネットワークの現況

円滑な救急患者の受入

専門的な脳卒中診療

切れ目のない医療・介護の提供

市民への普及啓発

地域連携バスの活用による地域医療連携

傷病者の搬送と受入に関する実施基準

在宅療養を支える関係者のネットワーク化

脳卒中画像伝送システムの整備

各地域における救急患者の受入体制の強化



救急車による来院患者数

能登 273人

加賀 1,147人

合計 1,420人

脳卒中画像伝送システムの利用件数と そのうち、他院に画像伝送した件数

能登 171件 (55件)

加賀 190件 (27件)

合計 361件 (82件)

回復期リハ実施後に退院した患者数と そのうち、在宅等に復帰した割合

能登 599人 (62.9%)

加賀 2,027人 (73.1%)

合計 2,626人 (70.8%)

脳卒中地域連携クリティカルパスの利用件数

能登 682件

加賀 443件

合計 1,125件

急性期治療を行った脳血管疾患患者数とそのうち、 t-PA治療を実施した件数

能登 585人 (うち12人)

加賀 2,730人 (うち85人)

合計 3,315人 (うち97人)



(注) 上記のデータは、平成25年1月から平成25年12月までの1年間のデータであるが、
加賀地域の脳卒中画像伝送システムの利用件数は平成25年4月から平成25年12月までの9ヶ月間のデータである。

石川県における脳卒中地域医療連携体制構築に向けた取り組み

平成20年4月石川県における脳卒中地域医療連携体制を構築するための協議、研鑽等の場として「石川脳卒中地域連携推進協議会」が設置されました。さらに県内の4つの医療圏の地域性を考慮し、下部組織として能登地域（能登北部・能登中部医療圏）に「能登脳卒中地域連携協議会」、加賀地域（石川中央、南加賀医療圏）に「加賀脳卒中地域連携パスワーキンググループ（以下加賀パスWG）」が設置されました。

能登地域

能登脳卒中地域連携協議会は、平成19年に始まった脳卒中地域連携パスのワーキンググループ活動をそのまま引き継いで平成20年7月に活動を開始した。その設立において、故濱田潤一郎 金沢大学脳神経外科教授の強力なリーダーシップなくしては実現しなかったといっても過言ではない。特に、行政と連携し、地域を支援する大学・行政・地域の三つ巴戦略は卓越している。当協議会のこれまでの主な活動としては、①脳卒中地域連携パスの普及・運営②パスから抽出したデータベース作成と解析、ウェブへの公開③スマートフォンを用いた能登北部病院から脳卒中専門医への画像伝送と

能登脳卒中地域連携協議会 会長
恵寿総合病院 脳神経外科

東 壮太郎



コンサルトシステムの構築④自宅へ退院する患者さんを対象にした脳卒中再発予防ノート作成⑤食形態マップの作成等がある。少子・高齢化、過疎という能登の地域性を逆手に取って、優れた独創性やデータの信頼性で全国的に注目を集めている。今後も、濱田教授のモットーであった石川の脳卒中医療を日本一にすること、また本会の基本理念でもある患者家族への貢献へ向けて、更に地道な努力を重ねていきたい。

最後になりましたが、故濱田教授の偉大なご業績に敬意を表するとともに、先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

加賀地域

加賀地域における脳卒中地域医療連携体制構築に向けた取り組み

平成20年6月に設置された加賀パスWGには脳卒中の急性期と回復期を担う24病院が参加し、地域の実情に合わせた脳卒中地域連携パスが（以下連携パス）作成され、平成21年より運用が開始されました。その後、新たに生活期の機関、事業所が加わり、平成24年8月には加賀脳卒中地域連携協議会が発足しました。医療機関:130機関、介護サービス事業所等:149事業所が会員となり、体制の強化、活動の発展充実が図られました。現在、各地域の在宅ネットワークと協働で、地域で生活するために必要な連携パスの検討や研修会を開催し、医療と介護の連携を促進するとともに、平成26年度より整備される「いしかわ診療情報共有ネットワーク」での連携パス運用に向けた取り組みを行っております。

連携パスの運用件数は、昨年443件（平成25年1～12月）、これまで

加賀脳卒中地域連携協議会 会長
石川県立中央病院 脳神経外科

宗本 滋



計約2000件となっており、データの解析評価も行われてきています。

脳卒中で障害が生ずることは本人はもとより、家族にとっても大変なことであり、時には途方に暮れるような状況がもたらされます。そのような時に多くの医療介護従事者が集まって、患者さんの治療だけでなく、家族の生活も考慮して支えてあげようというのが本協議会の目的であり、活動です。その活動こそが社会で人間が人間を支え合う活動の一つです。多職種の人々が仕事を終えてから平日の午後7時より集まり、意見を出し合い、新しいものを創り出していく活動であり、これに参加できることは幸せであり、私は有り難いことだと思っています。

連携パスは効率的な医療介護を実践するための単なる計画表ではなく、多職種の人々が手をつなぐ役割を担うものとしても活用されています。今後とも本会の活動にご理解とご支援を頂ければ幸いです。

濱田潤一郎教授の死を悼む

石川県における脳卒中地域医療連携体制構築に向けた取り組みの先導者であり、多年にわたり脳卒中の医療・保健・福祉・介護の発展向上に多大なる貢献をなされた金沢大学附属病院 脳神経外科教授 濱田潤一郎先生（59歳）が昨年10月にご逝去さ

れました。ここに謹んでご冥福をお祈りするとともに先生が蒔かれた種を大きく育て、その結実を地域の方々に福音として還元されるよう活動して参りたいと思います。

在宅医療

1 在宅医療推進協議会
2 在宅医療推進事業報告会

在宅医療・介護の連携促進の取り組みをスタート

1. 在宅医療推進協議会

平成26年3月19日(水) 石川県医師会4階 委員会室

議 題

- 平成 25 年度在宅医療推進事業報告
- 平成 26 年度事業計画について
- 在宅医療の現状、問題点、今後の展開について



各会代表の参加者



近藤 邦夫 氏
石川県医師会会長



西村 元一 氏
石川県医師会理事



佐原 博之 氏
石川県医師会理事



藤邑 守成 氏
石川県歯科医師会副会長



吉野 幸枝 氏
石川県看護協会会長



能村 明文 氏
石川県薬剤師会会長



新澤 祥恵 氏
石川県栄養士会会長



片田 圭一 氏
石川県理学療法士会会長



進藤 浩美 氏
石川県作業療法士会会長



西川 昭彦 氏
石川県介護支援専門員協会会長



石原 俊彦 氏
石川県介護福祉会理事
(代理出席)



勝木 準 氏
石川県言語聴覚士会会長



山下 美津江 氏
石川県医療ソーシャルワーカー協会会長



越間 幸子 氏
石川県医療在宅ケア事業
団訪問看護管理部長



松下 重人 氏
加賀市医師会会長



東野 義信 氏
小松市医師会会長



松田 健志 氏
能美市医師会会長



吉光 康平 氏
白山のいち医師会会長



沖野 惣一 氏
河北郡市医師会理事
(代理出席)



四蔵 直人 氏
羽咋郡市医師会会長



神野 正博 氏
七尾市医師会会長



松下 元 氏
能登北部医師会理事

2. 在宅医療推進事業報告会



石川県の在宅医療推進事業報告会は3月19日(水)、県医師会館で開かれ、12のモデルチームが平成25年度に実施した取り組みや課題、今後の方針について発表しました。参加した関係者は、それぞれの地域の特性を踏まえた活動報告に耳を傾け、より

よい在宅医療の実現に向けて議論し、考えを深めました。

県医師会の近藤邦夫理事が開会挨拶し、平成25年度の推進事業について、協議会や研修会の開催状況などを報告しました。

続いて、県医師会の西村元一理事が司会を務め、12グループが1年間の活動を報告。食事介助や認知症ケア等の研修会や症例検討のグループワーク、他職種との連携の工夫など、地域の実情を考慮して実施した成果と、そこから見えた問題点などを発表しました。また、石川県医師会の佐原博之理事が平成25年度の石川県医師会在宅医療推進事業についての報告も行いました。



平成25年度

在宅医療連携グループ活動報告【12グループ】

1 こまつ在宅医療研究会

代 表：勝木 保夫 氏

事業内容：研修会の開催、医療機関や関連職種等の連携・情報交換研修会の開催



【発表者】
勝木 保夫 氏

2 金沢元町在宅医療を考える会

代 表：近藤 邦夫 氏

事業内容：研修会の開催、アンケート調査、地域住民等への広報、医療機関や関連職種等の連携・情報交換



【発表者】
森山 雅美 氏

3 りくつなケアネット金澤

代 表：洞庭 賢一 氏

事業内容：研修会の開催、アンケート調査、地域住民等への広報、医療機関や関連職種等の連携・情報交換



【発表者】
大谷 千晴 氏

4 河北認知症を地域で考える会

代 表：沖野 惣一 氏

事業内容：研修会の開催、医療機関や関連職種等の連携



【発表者】
元女 貴久乃 氏

5 あじさい会

代 表：安田 紀久雄 氏

事業内容：研修会の開催



【発表者】
松栄 拓美 氏

6 いしかわ921在宅ネットワーク

代 表：西村 元一 氏

事業内容：研修会、県民公開講座、研究会、会議、脳卒中連携協議会とのコラボレーション、視察



【発表者】
橋本 昌子 氏

7 白山野々市在宅連携委員会

代 表：松葉 明 氏

事業内容：研修会の開催、アンケート調査の実施、地域住民等への広報医療機関、関連職種等の連携・情報交換



【発表者】
松葉 明 氏

8 白山市在宅医療協議会

代 表：真田 陽 氏

事業内容：研修会の開催、アンケート調査の実施、地域住民等への広報医療機関、関連職種等の連携・情報交換



【発表者】
伊藤 祐司 氏

9 メモリーケアネットワーク能美

代 表：水毛生 直則 氏

事業内容：啓発のための「市民公開講座」の開催、事例検討会の実施、中学校の「総合学習」の時間帯を利用した学習会、町内会や老人会などで少人数の講習会の開催



【発表者】
松田 健志 氏

11 はくい在宅研究会

代 表：松沼 恭一 氏

事業内容：研修会の開催、医療機関や関連職種等の連携・情報交換、研修会の開催



【発表者】
松沼 恭一 氏

10 加賀市在宅医療連携推進協議会

代 表：橘 秀樹 氏

事業内容：アンケート調査の実施、地域住民等への方向、医療機関や関連職種等への連携・情報交換



【発表者】
橘 秀樹 氏

12 ななお紫蘭の会

代 表：円山 寛人 氏

事業内容：研修会の開催、アンケート調査の実施、地域住民等への広報、医療機関、関連職種等の連携・情報交換



【発表者】
円山 寛人 氏

平成26年度 在宅医療推進事業についての行政計画

〈平成25年度〉

主な取組み

1. 在宅医療連携システム推進費 6,600千円
2. 多職種協働チームによる在宅チーム医療を担う人材育成事業 1,800千円
3. 認知症地域支援体制の構築 4,500千円
4. 高度・専門医療人材養成事業(公募)

石川県在宅医療地域リーダー研修会

【第1部】13:30～18:30 【第2部】19:00～21:00(親睦会)

【日時】9月15日(日) 【場所】金沢都ホテル 【参加者】103名

かかりつけ医等認知症対応力向上研修

カリキュラム1(1日目)事例検討会1	カリキュラム2(2日目)講義	カリキュラム3(3日目)事例検討会2
1月23日(木)19:00～21:00	1月29日(水)19:00～21:00	2月13日(木)19:00～21:00

3つのカリキュラムを修了した医師を「かかりつけ医」と認定。

〈平成26年度〉

事業計画

●1-在宅医療連携システム推進費

県医師会 関係

- ・在宅医療推進協議会の開催
- ・県民公開講座の開催
- ・地域リーダー養成研修会の開催
- ・在宅医療連携グループに対する支援

県薬剤師 関係

- ・薬局・薬剤師在宅医療研修会の開催

●2-認知症地域支援体制推進事業費

●3-高度・専門医療人材養成支援事業(公募)

臨床研修医の地元定着のために

明日の石川の医療を担う 若手医師の集い

主催：石川県、石川県臨床研修推進協議会

平成26年 2月2日(日) ホテル金沢



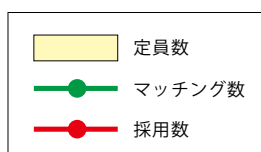
石川の病院で臨床研修を！ 合同説明会で医学生らにアピール

「明日の石川の医療を担う若手医師の集い」(主催：石川県、石川県臨床研修推進協議会)は2月2日、金沢市のホテル金沢で、医学生や関係者らが多数参加して開かれた。

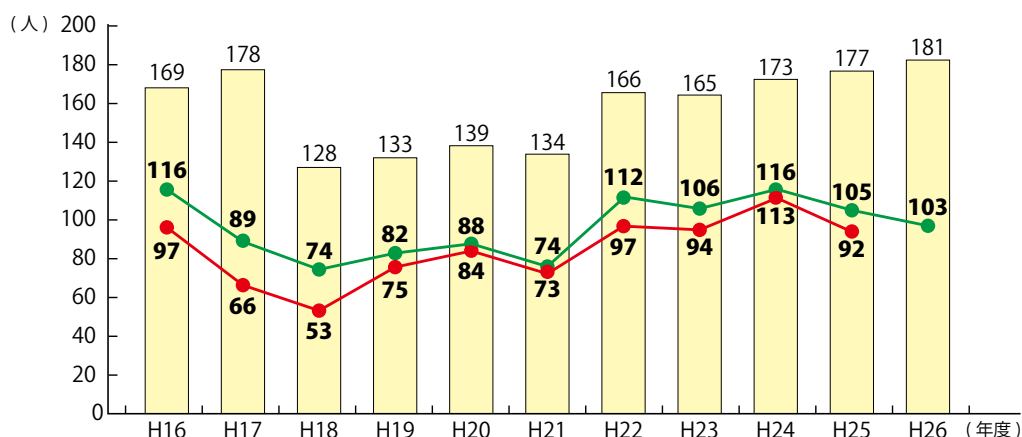
集いは石川県内で学ぶ医学生や臨床研修医が、石川で医師としてのキャリアを積み、末永く活躍できる環境づくりを地域一丸となってバックアップするため開催している。はじめに北川龍郎石川県健康福祉部長の挨拶から始まり、その後県内14の臨床研修病院より研修プログラムや指導体制、病院の特徴などが紹介された。その後参加した学生たちは各病院のブースに立ち寄り担当者の話に熱心に耳を傾けていた。



臨床研修医 採用数等の推移



(注) 数値にはマッチング対象外となっている自治医大卒業生は含んでいない





石川県地域医療支援センター

金沢市宝町13-1 金沢大学附属病院 内 TEL.076-265-2991